

再エネ賦課金減免制度に係る原単位の改善のための取組に関する状況について

弊社では、持続可能な社会の実現に向け、エネルギー効率や資源利用効率の向上を目指して、「原単位の改善」に取り組んでおります。

原単位とは「電気使用量／売上高」のことであり、その改善に向けて以下のような活動を行っております。

1. エネルギー消費量の最適化
- 車両の運行効率を高め、電力消費を抑えるための運行計画の改善や省エネ運転を推し進めています。
2. 設備の省エネ化
- 駅や車両における省エネ設備の導入を検討し、電力消費量の削減を図っています。
3. 電力消費量の見える化
- 事業所、車両の電力使用実績を毎月確認・分析しています。

これらの取組を通じて、輸送における環境負荷を最小限に抑えるとともに、快適で安全なサービスの提供に努め地域社会への貢献を続けてまいります。

原単位の改善のための取組に関する状況【2024年度提出分(2023年度実績)】※非特定事業者用

えちぜん鉄道株式会社

(Echizen Railway Co.,Ltd.)

法人コード

法人番号

日本標準産業分類

コード

項目名

中分類

421

鉄道業

細分類(申請事業)

4211

普通鉄道業

エネルギー管理統括者

【役職】
【氏名】

エネルギー総使用量

25,488

GJ

658

kWh

前年度エネルギー総使用量

kWh

非化石エネルギー総使用量

GJ

kWh

調整後温室効果ガス排出量

t-CO₂

【エネルギーの使用の合理化】

主たる事業におけるエネルギー消費原単位※(2023年度実績)

原単位分母

主たる事業の構成割合

%

事業者全体のエネルギー消費原単位対前年度比

2019年度

2020年度

2021年度

2022年度

2023年度

事業者全体の5年度間平均原単位変化(%)

【温室効果ガス排出量の算定に用いた調整後排出削減量の量】

種別

合計量

-

-

t-CO₂

-

-

t-CO₂

-

-

t-CO₂

【電気需要の最適化】

主たる事業における電気需要最適化評価原単位(2023年度実績)

原単位分母

DR実施日数

事業者全体の電気需要最適化評価原単位対前年度比

2019年度

2020年度

2021年度

2022年度

2023年度

事業者全体の5年度間平均原単位変化

【ベンチマーク指標の状況(合理化)】

ベンチマーク区分

目指すべき水準

ベンチマーク指標の状況

ベンチマーク区分

目指すべき水準

ベンチマーク指標の状況

ベンチマーク区分

目指すべき水準

ベンチマーク指標の状況

ベンチマーク区分

目指すべき水準

ベンチマーク指標の状況

ベンチマーク区分

目指すべき水準

ベンチマーク指標の状況

【非化石エネルギーへの転換】

電気の非化石比率

事業者全体で使用する電気

目標(2030年度)

28.0%

直近5年度間の実績値

2019年度

2020年度

2021年度

2022年度

2023年度

28.9

目安設定案種

目安(2030年度)

目標(2030年度)

直近5年度間の実績値

2019年度

2020年度

2021年度

2022年度

2023年度

目安設定案種

-

-

目安(2030年度)

-

目標(2030年度)

-

直近5年度間の実績値

2019年度

2020年度

2021年度

2022年度

2023年度

-

【取組の概要:業界の事情等を考慮した取組について(定量指標)】

【取組の概要:業界の事情等を考慮した取組について(定性的事項)】

1. エネルギーの使用の合理化に関する事項

・事業所、車両の電力使用実績を毎月確認・分析する

・加速時間の短縮や回生電力を使用した省エネ運転を行い使用電力削減に努める。

・電力を効率的に利用するVVVFインバーター制御・回生ブレーキの装備や車体の軽量化による省エネルギー車両の導入を図る。

2. 非化石エネルギーへの転換に関する事項

電力会社からの買電が100%を占めているため、電力会社の実績による。

【取組の概要:カーボンニュートラルに向けて】

1. 自由記述欄(カーボンニュートラルの実現等に資する事業者独自の取組や革新的技術に係る研究開発等の取組について)

2. 関連リンク

(注意事項)

・枠内記載は必須記載です。

・再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法第37条第1項の規定による、賦課金に係る特例の適用を受ける期間においては、情報の公表を継続する必要があります。